



CEATEC JAPAN 2016 コンファレンス「AIと知財について」開催報告

2016年10月7日(金)に幕張メッセ 国際会議場においてCEATEC JAPAN 2016 コンファレンス「AIと知財について」をJEITA法務・知的財産権委員会主催にて開催いたしました。



内閣官房知的財産戦略推進事務局次長 磯谷桂介様によるご挨拶



衆議院議員 ふくだ峰之様によるご挨拶

背景

AI時代に産業競争力を高めていくために競争と協調のバランスの重要性が指摘されています。AIやIoTを最大限に活用するためにはデータの共有と利活用が求められる一方、付加価値のあるAIに係る学習済モデルやノウハウについては、ビジネスモデルやエコシステム等を踏まえ、産業の発展を阻害しないよう慎重な検討が必要です。

このような問題意識の下、AI時代に産業競争力を高めるために必要な知財保護と情報材の利活用の在り方について問題提起すべく、CEATEC JAPAN 2016において、コンファレンス「AIと知財について」を開催することといたしました。

概要

内閣官房知的財産戦略推進事務局次長 磯谷桂介様からのご挨拶と経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 情報政策企画調整官 長谷弘道様による基調講演「オープンなデータ流通構造に向けた環境整備」を皮切りに5つの講演を行いました。

AIの機械学習の全体像について、株式会社Preferred Networks最高戦略責任者 丸山 宏様から「学習済モデルの再利用について」と題し、ご講演いただきました。

また、株式会社UEI代表取締役社長兼CEO 清水 亮様から、「ビジネスからみた深層学習と知的財産権」と題し、AI開発のビジネスの現場で日々感じておられる知的財産権に関する課題等についてご講演いただきました。

さらに、主催者としてJEITA法務・知的財産権委員会 戸田裕二 委員長による講演「AI時代の産業発展に向けた知財上の課題整理」とJEITA法務・知的財産権委員会 著作権専門委員会 榊原美紀 委員長による講演「柔軟性のある規定の導入の必要性について」では、AI時代に産業競争力を高めるために必要な知財保護とデータの利活用の在り方について講演を行いました。

最後に衆議院議員 ふくだ峰之様よりデータの利活用推進と柔軟な権利制限規定の導入に向けたメッセージをいただきました。



会場風景 (300名近い参加者登録)

【AI時代の産業発展に向けた知財上の課題整理①】

国内制度整備に向けて～データの利活用推進～

競争領域と協調領域を見極めたデータの利活用推進

- データについては、共有により得られる価値を踏まえ、各企業が戦略に基づき、利活用が推進されることが日本産業界全体の発展に繋がると考えられる。
- データ利活用の前提として、プライバシー等個人の権利利益の保護、サイバーセキュリティ対策、国境を越えるデータ流通の確保などが必要。
- AI開発（機械学習）に必要なデータ規模を確保し、重複投資を避けるためにもデータの利活用促進が求められる。

＜データの共有により実現される価値＞

1. 社会的価値の向上
 - ・ 人の生死や安全等に関するデータの協調を進めることで、社会保障の質の向上や防災体制の強化等の社会的便益を向上。
2. 効率的資源配分の実現（重複投資の排除）
 - ・ 競争優位の確立・差別化に繋がっていないデータの協調を進めることで、当該分野における重複投資を排除し、効率的な資源配分を実現。
3. 圧倒的なデータ規模の確保
 - ・ 個々の事業者にはデータが散在し、質・量が不足するデータについて協調を進めることで、競争優位を構築するために十分なデータ規模を確保。

＜競争のための知財上の保護と関連法＞

注：「産業界構造協議会 新産業界構造部会」資料を加工

【AI時代の産業発展に向けた知財上の課題整理②】

AI時代の知財上の課題

第4次産業革命で整理すべき知財上の課題

- 付加価値のある人工知能（具体的には、ディープラーニング等の機械学習）に係る学習済モデル等の市場が考えられるところ、保護方法が定まっていない（特許権、著作権、営業秘密としての保護、...）。
- ディープラーニング等の機械学習の主な流れは下記の通りであるが、「②学習用データセット」や「③機械学習」に用いられるアルゴリズムやプログラム、「④学習済モデル」の取扱いについては、ビジネスモデルやエコシステム等を踏まえた上での産業の発展を阻害しないよう慎重な検討が必要。
- 他方、人工知能の機械学習用のデータを確保し、日本の人工知能開発を後押しするため、少なくとも「①生データ」については、著作物性のあるデータが含まれていても個別の許諾なしに利用できることが望ましい。

①生データ

②学習用データセット

③機械学習
(アルゴリズム、プログラム)

④学習済モデル

⑤利用
(アプリケーション)

注：「産業界構造協議会 産務流通情報分科会 情報経済小委員会 分取戦略WG」資料を基にJETTAが画像認識の事例を作成